

## 「産経新聞は何を伝えたか—2022年を振り返る」

フジサンケイ広報フォーラム 12月・月例会は、産経新聞東京本社編集局長の三笠博志氏に今年の重大ニュースなどについて解説いただきました。



三笠氏は、今年の重大ニュースはなんといっても、2月のロシアによるウクライナ侵略と7月の安倍晋三元首相銃撃と話し、この2つの出来事は、いずれも自由や民主主義という価値観を揺るがすもので、日本の安全保障論議、強権国家のふるまい、物価高など今年の他の大きな出来事にも重い影響を与えていると解説。

ロシアによるウクライナ侵略は、21世紀においても強権国家の体質や行動原理が変わらないことを可視化したとし、この事態が日本にとって決して他人事ではないという現実を伝えたと話されました。

その意味でも、「自由で開かれたインド太平洋構想」をいち早く提唱して自由主義諸国でリーダーシップを発揮した安倍元首相が、あのようなテロで命を奪われたのは極めて大きな損失だと述べられました。

そして、現代は誰もが瞬時に情報発信が出来る便利な時代ではあるが、負の側面も見え隠れすると話され、アルゴリズムによってフェイクニュースや偏った情報・考え方に取り囲まれる危険があると警告されました。最後に、そんな中で民主主義をどう守っていくのか。来年の産経新聞の大きなテーマの一つだと考えていると強調し、講演を締めくくられました。

講演終了後は、2年ぶりに恒例の年末懇親会を開催しました。

